

令和2年度第1回日進市総合教育会議 議事録

日 時 令和2年12月24日(木) 午後1時30分から午後3時まで

場 所 日進市役所本庁舎4階第1会議室

出席者 近藤裕貴(市長)、久保田力(教育長)、藤井美樹(教育長職務代理者)、森本直樹(教育委員会委員)、小林秀一(同)、伊藤志門(同)、市来ちさ(同)

欠席者 無

事務局 石川達也(総合政策部長)、和田徹(同部調整監)、杉田武史(同部次長兼企画政策課長)、安彦直美(同課課長補佐)、山浦勝義(同課企画経営係長)、中根友樹(同課同係主事)

説明の為に出席した者 市川秋広(学習教育部長)、加藤慎司(同部次長兼教育総務課長)、高田由紀(主任指導主事)、鬼頭聡(生涯学習課長)、後藤幸宏(学校教育課長)

傍聴の可否 可

傍聴の有無 有(3名)

次 第 1 開会
2 あいさつ
3 議題
(1) 地域学校協働活動について
(2) GIGA スクール構想について
4 その他
教育大綱について

配付資料 資料1 地域学校協働活動について
資料2 GIGA スクール構想について
資料3-1 教育大綱について
資料3-2 日進市教育大綱

発 言 者	内 容
	1 開会
	2 あいさつ
	3 議題
	議題(1) 地域学校協働活動について
市 長	議題(1)について、学習教育部から説明をお願いします。
学 習 教 育 部	(資料1に基づいて説明)
市 長	委員の皆様、お一人ずつ意見や質問を賜りたいと思います。
委 員	この話を最初に伺ったとき、とても素晴らしい取組だと思いました。説明の中ではあまり出てこなかった家庭教育支援活動を担う団体として、家庭教育推進委員会があります。私がかつてこの団体で活動していた際、人とのつながりが薄いと活動がしにくいと感じていました。何かひとつ行事を行う際にも、つてがなければ自分たちでどうにかしなければならぬ等、運営する人の負担が大きくなります。そして、その負担感がどんどん大きくなると、活動自体がうまく回らなくなり人手が減ってしまいます。

	<p>家庭教育推進委員会は地域の方や歴代の PTA の方の、善意という言い方は適切でないかもしれませんが、地域に貢献するというお気持ちで成立している部分があり、負担が大きくなると離れてしまうのを肌で感じました。その結果、同じ人にばかり負担がかかり、うまくいかないというのが近年どこの家庭教育推進委員会でも経験されていると思います。</p> <p>この団体の活動自体、例えば学校の草刈りや修繕への協力がありますが、地域の子どもたちのために、という気持ちの下とても素晴らしい取組を行っていると思います。また、おやじの会というものもあり、普段つながりを作りづらい父親たちがつながりを持てる機会として、とても素晴らしいものだと感じています。</p> <p>それらの団体が継続するためには、行事等の際にお手伝いしてくれたり、つてを紹介してくれたりするコーディネーターのような存在がいるということがとても大きいです。一般的な親の立場からすると、例えばスポーツ協会までは辿り着きづらいですが、説明のコーディネーターであれば可能だと思いますので、横のつながりができるという意味で今回の取組は、学校にとっても、地域やそれを取り巻く人々にとっても、よいものだと思います。ただ、今回の取組が組織として確立されるには時間がかかると思いますので、長い目で見ていければとは思いますが。様々な活動の中でコーディネーターが動けるようになるといいと思います。</p> <p>コーディネーターを 4 中学校区に配置するとありましたが、家庭教育推進委員会は各小学校区単位で存在するものなので、うまく連携を取りながら活動できるか心配な部分があります。</p>
市 長	<p>例えば西中学校区であれば、西小学校や香久山小学校、赤池小学校を同じコーディネーターが担当します。それぞれの学校長や教頭のご意見を聞きながら、他の中学校区のコーディネーターとも連携し、活動を進めていくことになります。</p>
委 員	<p>4 人のコーディネーターで連携をとり、校区同士の交流もぜひやっていただければと思います。</p>
委 員	<p>資料には学校と大きく書かれていますが、学校の中でも学校運営の部分を助けてほしい場合と子どもたちの教育の部分を手伝ってほしいという場合の 2 つがあると思いますので、そのあたりは分けて考えてはいかがでしょうか。資料は教育に関する部分だと思いますが、実際に学校が困っているのは、養護教諭が忙しいとか、障害児の対応が難しいとか、そういう部分でもあると思います。資料にはありませんが、例えば医療分野であればそのような部分のお手伝いができますので、実際に学校が困っている部分のお手伝いと、将来子どもがこうなりたいと思えるような体験教育の面と、併せて行っていくのが大事だと思います。</p> <p>先ほども申し上げましたが、例えば医療界で言えば、子どもの体験として病院に来ていただくことも可能かと思えますし、定期健診など学校の繁忙期に看護師が養護教諭の手伝いに行くなどの連携が考えられます。しかし、現</p>

	<p>在學校に対して敷居が高いイメージがあるため、なかなか入っていけない状況です。その状況が解消され、得意な人が得意なことを行うような体制になっていけば、より良くなっていくと思います。</p> <p>提案ですが、取組の中に ICT を活用するのはいかがでしょうか。資料 1 の中に、地域学校協働本部が行うこととして支援メニューの集約があります。インターネットで支援メニューを閲覧できるようにし、各学校が取り組みたい項目があればコーディネーターに連絡する、という形にすれば、各学校にコーディネーターが要望を聞きに回る労力を減らすことができますし、企業が行える内容を投稿しておくことでマッチングしやすくなると思います。ぜひ取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>次の議題にも関わりますが、昨日の文科省の分科会の中で出た話として、GIGA スクール構想を進めていく中で、ICT の利活用が苦手な先生が一定数いるというのがありました。ハードが壊れるなど様々なトラブルが考えられる中で、学校の先生では対応が難しいものがあるかと思っています。その部分を地域の ICT に関連する企業がお手伝いしてくれるようなコーディネートをうまくできると、大きな効果があると思います。</p> <p>ただ、コーディネーターの役割が大きくなるにつれてその責任や業務が重くなるので、そこを補助する仕組みも必要だと思います。</p>
市長	<p>先ほど医療の話がありましたが、例えばキャリア教育の一環で小学校にお医者さんがいらっしゃってお話を下さる、となれば、普段は調子を崩して診察を受けるために病院に行きますが、それと違い、将来この仕事につくかもしれないという観点でのお話が聞けることになります。もちろんそれは医者に限りませんが、キャリア教育の推進という観点で考えると、このような取組がより一層進むことを期待します。子どもたちが早い段階で将来に関する話をたくさん聞ける、というのは将来設計の観点から本当に意味があると思います。</p>
委員	<p>地域社会からすると、子どもと接したいけど学校が活動をすべて行っているために、そうした時間が取れないと感じています。企業も同様で、早いうちから自分たちの仕事に興味を持ってほしいと思っても、なかなかその機会が持てない状況だと思います。もちろん今の体制もよいと思っておりますし、子どもの活動が増えてしまう可能性も考慮しなければなりません、この取組を通して、学校にもよりいい影響があるのではないのでしょうか。</p>
市長	<p>国語や算数など、勉強すべきことは確かにたくさんありますが、それ以外の部分で早い段階から色々なものに触れられるような、そんな学校になることを期待しています。</p>
委員	<p>7、8年ほど前までは日進市立の中学校に勤務してまして、年に1度教科のイベントで外部講師を呼ぶことができました。その際は、担当教員やほかの教科担当の教員の人脈に頼らざるを得ず、とても大変だった印象があります。それを考えますと、今回の仕組みは大変素晴らしいと思います。</p> <p>東浦町にはコーディネーターの仕組みが既にあり、4年ほど前に現在の大学</p>

	<p>教員という立場から調査に伺ったことがあります。スクールパートナーという名前でボランティアを募り、コーディネーターが各学校に必要な人材を派遣するという制度です。そこで興味深かったのは、一方的にボランティアで活動するという形ではなく、ボランティアの方にとっても学びや発表の場になることで、学校と Win-Win の関係を築いていたことです。ぜひこの取組もそういう形になっていけばと思います。</p> <p>総合的な学習の時間に外部講師が必要なことがありますので、そういった場合に単発でボランティアをお願いするのもいいかと思いますが、毎週この曜日にこの方に来ていただける、といった継続性のある形になると、学校現場の先生方もこういった形で参加してほしいという要望を出しやすくなるのかと思います。すぐには難しいかもしれませんが、ぜひこのような取組も目指してほしいです。</p> <p>先ほどほかの委員がおっしゃったように、コーディネーターの負担が大きくなってしまいますので、情報を集約した自治体ネットワークのようなものを作るのが良いと思います。各学校の校長や教頭がアクセスし項目を見ながら選べるようにしていただきたいです。</p>
市長	<p>最後の話に関連して伺いますが、コーディネーターが各学校に訪問し、直接話すのは負担が大きいので、各コーディネーターの概要や実績が閲覧できれば負担が解消できるのではないかと、ということでしょうか。</p>
委員	<p>それに加え、授業・学校の取組の中でこうしたい、というぼんやりとしたイメージがあっても、何をしたいかまでは明確に決まっていない、という場合に、リストを作っておくことで選択肢ができると思います。</p>
委員	<p>提供する側のコンテンツをまとめておくとういと思います。例えば、がん教育ができます、2時間くらいの内容でこの曜日に行けます、といった内容があれば、先生も選択しやすくなりますし、そこからコーディネーターが調整していただければ、コーディネーター自身の活動の幅も広がると思います。</p>
委員	<p>私はスポーツ関連を専門としていますので、特に部活動について申し上げます。部活動やクラブ活動は教室以外での貴重な体験ができる場所です。これらは、特に中学生くらいから、指導に専門性が求められる場合も往々にしてありますので、外部指導者をうまく活用していただきたいと思います。教員の長時間労働の問題として、クラブ関連が大きな一因になっています。教員の立場からすれば、専門でないクラブであるため自信をもって指導ができず、それも大きな負担になっていると思います。それを支援できるような人材は、どうしても必要だと思います。</p> <p>今回の地域学校協働活動の仕組みは、活動の場を与えていただくという意味からするとまさに外部指導者には必要なもので、運動部や文化部に限らず、一週間に1、2回基礎的な指導に参加できる人材、例えば学校OBや企業スポーツに携わる方、大学生等が関わっていければ一番良いと思います。</p> <p>この取組が進めば地域のスポーツの活性化にもつながりますので、ぜひ取組を進めていただくようお願いします。</p>

市長	学校からすれば、部活動支援は非常にニーズの高いものだと思います。現在、実際に市内中学校の部活動に外部講師が参加している事例はあるのでしょうか。
学習教育部	実際にあります。学校の活動時間に合わせて指導していただくため、時間は限られますが、その中で地域の方等に参加いただいています。ただ、学校の活動に合わせるという都合上、参加いただける人材が少ない面もあるため、コーディネーターが入ることで人材の幅の広がりが期待できます。
委員	現在、外部指導者の受付窓口のようなものは学校にないと思いますが、今後はコーディネーターがそうなると思います。そうなれば、様々な指導者を通じたつながりが増えていくことが予想されますし、資格保有者が探せるなど指導者自体の質も上がっていくと思います。コーディネーターが、指導者側が提案しやすく話がしやすい窓口になっていくことに期待します。
委員	<p>この取組が良い方向に進めば、日進というまち、そして人が変わっていくと思いましたが、ただ、現実を見ると、なかなか難しいことも多いように感じます。現在、様々な組織がそれぞれ活動しているところを、学校への支援という面から取りまとめていこうというものと感じましたが、これらがこの取組に共感し、同じ方向を向いていけるかが、1つ大きなポイントだと思います。コーディネーターがこの取りまとめの部分を担ってくださるものだと思いますが、先ほど申し上げたポイントがうまくいくかは、コーディネーター次第だと思います。調整する相手がたくさんいる中で、それぞれに話をしに行くとなると、とてつもない負担になってしまいますので、先ほどほかの委員がおっしゃったように、様々な情報が手に入るような何かがあるとコーディネーターも動きやすいと思います。</p> <p>逆に言えば、コーディネーターがうまくいかなかった場合、今と同様にその役割は学校になり、今と変わらない状況になってしまいます。コーディネーターがどれだけ活動できるか、どのような方がなるのか、非常に重要なポイントです。コーディネーターの役割を十分に担える人材が4人しっかりと見つければ、この取組は前進していくと思いますが、うまく進まなかったから学校がその役割を持つ、ということにならないようお願いします。</p> <p>人とのつながり、地域のつながりが薄いという話も出ていましたが、この取組が進めばそのつながりがどんどん強化され、冒頭に申し上げたように日進が変わると思いますので、どうぞよろしくお願いします。</p>
市長	生涯学習課として、コーディネーターを任せる人材の具体的なイメージはあるのでしょうか。
学習教育部	地域の問題をなんとかしようと思前向きに考えてくださる方が良いと考えております。学校のニーズを細かく聞く必要があると考えており、先ほどWin-Winという話もありましたが、例えば学校の先生で部活動を積極的にやっていきたいと考えている方に対して我々が仕組みを無理強いするのではなく、何が必要なのか、しっかり確認していく必要があると思います。赤池小学校ではバスケットボールが盛んで先生も積極的に取り組んでみえるとのこ

	<p>とですが、その先生の活動をサポートできるような人が必要になります。</p> <p>そういった学校のニーズを、スポーツ・音楽に関わらず、丁寧かつ前向きに拾うことができるような方がいいと考えています。また、先ほどお話があったように、支援メニューのリスト化などコーディネーターが行う事務は膨大になると考えていますので、これらの事務委託についても検討しています。企業が持つノウハウを取り入れながら、ただコーディネーターが仲介のために駆け回るという形ではなく、ICT利活用を検討してまいります。</p> <p>ただ、最後は人のつながりが一番重要だとも考えていますので、データの利活用もしながら、学校や地域、企業等それぞれとしっかり話をした上で、つないでいける方をお願いしたいと考えています。</p>
委員	<p>コーディネーターの育成も進めていく必要があると思いますので、可能であれば1中学校区に2人コーディネーターが配置できるとより良くなると思います。1人はコネクション等を持った経験のある方で、その方に若手がサブとしてつく形が理想的でしょうか。育成について考えなければ、事業の継続性はないと思います。</p>
市長	<p>体制については、どのように検討されているのでしょうか。</p>
学習教育部	<p>現在はコーディネーター1人につき週1回4時間の活動を予定しています。データのリスト化など、今回の会議でいただいた意見をすべて反映していくことは、すぐには難しいと考えていますが、取組が進んでいく中で業務・後任の育成等に必要である、ということであれば検討してまいります。まずは、来年度は1中学校区につき1人の形で運用してまいります。</p>
市長	<p>4人いるコーディネーターが、担当する学校を変わっていくような仕組みは検討していますか。4人のコーディネーターの年齢構成を、2人はベテラン、2人は若手という形で運用し、ベテランの後任に若手が行くようにすればある程度よいかもしれません。</p>
学習教育部	<p>同じ人が、ずっと同じ学校という運用は考えていません。地域に密着し、強固なつながりがある状態ではなく、担当する地域を変えることで、コーディネーターがそれぞれの地域の情報を得られるような形で考えています。</p>
委員	<p>いきなりすべての取組を行うのは、コーディネーターの負担という観点から難しいと思いますので、まずは文化協会・スポーツ協会を対象を絞って、授業と部活の支援・補助を重視するのが良いと思います。先生の代わりではなく、あくまで補助・支援の立場として、です。</p>
市長	<p>確かに、まずは少しずつ始める形で取り組むのが良いかもしれません。</p>
委員	<p>その後、少しずつ地域に広げていき、何年間の計画になるのかはわかりませんが、今思い描いているような形に近づいていくのが理想的かと思います。</p>
市長	<p>いきなりすべてを望んでスタートするのではなく、より現実的に進めてほしい、ということですね。GIGA スクール構想の推進など、現場の負担も加味しながら進めていくことが必要だと思います。</p> <p>教育長はいかがでしょう。</p>
教育長	<p>現在でも、点としては家庭教育推進委員会やPTAなど、それぞれが活動を</p>

	<p>行ってくださっています。それを、点ではなく線、あるいは面として取り組んでいきたい、ネットワークを繋げていきたい、というのがこの地域学校協働活動です。新たに会議が行われるなど負担が新たに増えるものではなく、あくまで各団体の皆様に認識を持ってもらい、日進市を地域・団体ごとではなく俯瞰的に見てネットワークを作りましょうというものです。ただ、これを行うには、やはりコーディネーターを設置しなければ難しく、新たな取組になるのかなと思います。</p> <p>皆さんのお話の中で、コーディネーターの負担等、様々なことを気にする声がありました。私のイメージでは、コーディネーターが負担なくできるような、その人の性質や人脈に左右されないような形にしていきたいと考えております。そのためには、先ほどのお話にあったようなリストなどを作ったりしながら、各地にある点にアクセスしやすくすることも必要かと思ひます。</p> <p>実際に取組を始めてみると、予想していなかった部分が出てくると思ひます。先ほどの医療の話もそうですが、予想していなかった組織・団体が新たな担い手になることもあるでしょうし、地域によって活動の活発さに差が出てくるようなこともあると思ひます。それをうまく調整しながら進めていければ、と考えております。また、委員から校区を超えた交流についてのご意見がありましたが、例えば家庭教育推進委員会で言えば、校区を超えた家庭教育推進委員会同士が学びという面で何かに取り組む、そこにコーディネーターが入って支援をする、というような形で実現するとよいと思ひます。</p>
市長	地域学校協働本部というのは、この名称でないといけないのでしょうか。
学習教育部	説明の都合上この名称にしていますが、校長先生方からも愛称を考えてはどうかというご意見をいただいておりますので、今後地域学校協働本部の方に愛称をつける提案をしていきたいと思ひます。
市長	地域学校協働本部、という名称からイメージされるものと、本日委員の皆様と話し合ったことのイメージが、少し違うように感じましたので、もう少し親しみやすいものはどうかと思ひ、お伺いしました。
	議題 (2) GIGA スクール構想について
市長	それでは、議題 (2) GIGA スクール構想について説明をお願いします。
学習教育部	(資料2に基づいて説明)
市長	ただいまの説明について、ご質問やご意見はございませんか。
委員	<p>インターネットは世界とつながるものですので、ある意味では非常に恐ろしいものです。1人1台子どもが持つこと自体にはもちろん賛成ですが、家に持ち帰るのは少し反対したい気持ちがあります。</p> <p>事業者では、一般的に社内の情報を外に持ち出すことは厳しく管理されております。学校もそれと同じで、校内だけのネットワークの中で接続し、実社会に出たときに正しく使えるよう教育することが重要だと思ひます。ツールとしての使い方という意味では、子どもたちの飲み込みは先生方をはるかに上回るものと想像します。校内の LAN でみんなに間違えて知れ渡ってしまった、というレベルのものがいきなり流出する可能性もありますし、学校側</p>

	の情報が流出することもあるかもしれないので、外に繋がる LAN と校内 LAN は必ず分離すべきと思います。
市 長	今の話について、どのような対策を行っていますか。
学 習 教 育 部	クラウドで情報を管理する予定であり、利用に関するルールの設定を進めていきます。保護者の方への周知啓発も徹底してまいります。 また、市で接続等を管理することもできますので、細心の注意を払って運用してまいりたいと考えております。
市 長	通信料はどのようなのでしょうか。
学 習 教 育 部	各ご家庭で通信環境を整えていただくことを原則として考えておりますが、就学援助等を受給しているようなご家庭につきましては、優先してモバイルルーターを貸出し、通信料を市が負担する形になります。 まずは学校での利用を考えておりますので、すぐに必要となることはないだろうと思いますが、準備を進めてまいります。
委 員	インターネットの利用等について、先生では対応が難しいことも多いと思いますので、先ほど話にあったような ICT 支援員等が代わりにチェックするような仕組みが必要だと思います。SNS を使ったいじめ等が問題になっておりますが、校内 LAN でも近いことが発生することも十分に見込まれます。何かことが起こった時に子どもを守れるように、また利用するモラルがしっかりと身につくような教育も充実させながら進めていただきたいと思います。
学 習 教 育 部	委員がおっしゃったように、情報社会を生き抜く力の養成は重要な観点だと思いますので、取り組んでまいります。
市 長	ICT 支援員を増やすという話がありましたが、どのようなのでしょうか。
学 習 教 育 部	現在は月に 1 回 ICT 支援員が各校に行っている状況ですが、新しい機器を導入し対応していかなければならないこの状況下では足りないと考え、月 3 回を検討しております。
	その他 教育大綱について
市 長	議事は終了しましたが、その他として、「教育大綱について」総合政策部から説明をお願いします。
総 合 政 策 部	(資料 3-1、3-2 に基づき、現在の大綱における策定の経緯や次期大綱の策定スケジュール等を説明)
市 長	ただいまの説明について、ご質問やご意見はございませんか。
委 員 等	(質問・意見なし)
市 長	教育委員の皆様ありがとうございました。それでは、会議の進行を事務局に戻したいと思います。
総 合 政 策 部	ありがとうございました。これもちまして、閉会とさせていただきます。
	(閉会)